

事業の基礎情報

事業実施地域	北海道（各運輸支局管内で1か所ずつ計7か所で実施／札幌・函館・旭川・室蘭・帯広・釧路・北見）
人材育成の対象	市町村交通担当の【A：若手職員】と【B：中堅職員】（加えて道庁・運輸支局・交通事業者の職員もサブ対象とする）
習得するスキル	【A：好通に関する知見，データ活用のノウハウ】，【B：コーディネートスキル】
人材育成の手法	【A：座学＋フィールドワーク＋ワークショップ（受講者として）】，【B：フィールドワークの企画実施（実践者として）】
人材育成の内容	【A：意義理解，計画策定・調査分析，サービス構築，利用促進に関するセミナー】，【B：実践力獲得のための企画支援】
想定受講人数	【A：170名程度（7か所×20～30名）】，【B：30名程度（7か所×3～5名）】
想定育成人数	【合計：200名程度（受講者A：170名＋協力者B：30名）】

現状・課題

（地域交通に係る人材の現状・課題）

【現状・課題①／地域交通に関する意義理解と基礎的レベルのスキル習得】

- ・地方部では地域交通専任人材が不在の自治体も多く学習機会も限られるため，地域交通の意義や知識の習得が不足しサービスの地域格差が生じている
- ・R5年度にモビリティ・マネジメントの研修を実施したが，受講者の知識レベルもまちまちだったため，より基礎的な内容を求める声が多かった
→必要なスキル：地域交通とは何か，どんな存在意義があるか，データ分析や計画策定の心構えといった基礎的レベルのスキル習得が求められる

【現状・課題②／取組意欲醸成や成功体験の獲得】

- ・計画策定やサービス導入自体が目的となってしまう，利用促進や啓蒙活動を含む継続的取組・本質的取組には至らず，計画やサービスが形骸化している
- ・R6年度に地域交通の意義理解等に関するキソセミナーを実施し意識改革等の高い成果を得たが，現場実践・見学の機会を得たいという意見がみられた
→必要なスキル：利用促進等の取組を「やってみせる」「させてみせる」ことで，現場での経験値や成功体験の獲得といった実践的スキル習得が求められる

運輸局・運輸支局
への事前相談

北海道運輸局

令和5年度共創モデル実証
プロジェクトの補助有無

有

- ・令和5年度：自走可能なモビリティ・マネジメントの共創モデルづくり事業
- ・令和6年度：地域交通のルーキー人材育成事業

取組の概要

(事業の概要)

- 取組内容：北海道内7か所で「地域交通キソセミナー」を開催する
- 基本構成：セミナーは「座学」「フィールドワーク」「ワークショップ」の一連の内容による1泊2日形式で構成する
- 内容詳細
 - ・座学：地域交通の意義理解とデータ分析・計画策定・調査分析・サービス構築・利用促進に関する基礎的知識に関する講義
 - ・フィールドワーク：開催地自治体と連携したバスの乗り方教室等の企画開催による現場見学・実践の場の提供
 - ・ワークショップ：利用促進・調査分析・計画策定・サービス構築のテーマに分かれて、セミナー後に地元に戻り企画検討の場を提供
- ターゲットと方針
 - ・A：若手職員・・・セミナーを受講してもらうことで、地域交通に関する取組実施において「戦力」と呼べるレベルへの育成を狙う（戦力化）
 - ・B：中堅職員・・・フィールドワークを通して取組の実践力や成功体験を獲得してもらい、他の「模範」となるレベルへの育成を狙う（模範化）
- 参加募集の工夫
 - ・参加無料：地方遠隔地の自治体の職員にも学習機会を等しく提供するため、受講料は無料とする
 - ・事前宿題：無気力参加とならないように、事前宿題や上長等からの推薦をいただくなどの工夫を検討する

※プログラム実施に必要な関係者がいる場合、下記に具体的に記載してください。

プログラム実施に必要な関係者	関係者の役割
・呉工業高等専門学校・神田佑亮教授（座学講師） ・福島大学/前橋工科大学・吉田樹教授（座学講師）	・座学において「地域交通の意義」や「計画策定・調査分析の心得」についての講師を依頼する
・地域交通に関する先輩職員（自治体・交通事業者等）	・座学において「体験談」や「サービス構築」についての講師を依頼する
・北海道庁（各振興局職員） ・北海道運輸局（各運輸支局職員）	・受講者募集にあたって周知等をご協力いただく
・開催地自治体や地域の交通事業者	・フィールドワーク実施に向けて協力して各種取組を企画実施していただく

事業主体において、これまで同種の育成事業に取り組んだ実績の有無

有

- ・令和5年度：自走可能なモビリティ・マネジメントの共創モデルづくり事業 →自治体職員等を対象としたセミナーを3回開催し延べ34名が参加。継続的な乗り方教室等の利用促進の取組実施に繋がった（例：音更町）
- ・令和6年度：地域交通のルーキー人材育成事業 →自治体職員等を対象としたセミナーを1回開催し37名が参加。次年度の計画策定やサービス構築、利用促進の企画立案に繋がった（例：オホーツク振興局）

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

役割分担とスケジュール	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
事業主体	交付申請	関係者調整	開催準備	セミナー開催		各種支払等		効果検証	とりまとめ
委託事業者		契約	開催準備	セミナー開催			アフターアンケート	効果検証	
外部講師（候補者5名程度）		依頼承諾	打合せ協議	セミナー講師					
フィールドワーク協力自治体・事業者		依頼承諾	打合せ協議	フィールドワーク企画実施					

外部講師
依頼候補者

呉工業高等専門学校・神田佑亮教授（内諾済） 福島大学/前橋工科大学・吉田樹教授（内諾済）
網走バス株式会社・明神健太専務 津別町産業振興課・石川勝己課長 赤井川村保険福祉課・高松重和課長

(セミナープログラム案)

1日目：座学	2日目：フィールドワーク+ワークショップ	※フィールドワークの想定パターン
・講義1：地域交通の意義	・フィールドワーク（開催地現場見学企画として）	・パターン1：バスの乗り方教室見学
・講義2：計画策定・調査分析の心得	・ワークショップ（グループ別に3テーマで検討）	・パターン2：バスの乗降調査実践
・講義3：サービス検討のポイント	・グループ発表（ワークショップ企画を発表）	・パターン3：利用促進イベント参加
・講義4：利用促進の実践技術	・まとめと講評（各運輸支局長へ依頼）	・パターン4：運転手確保イベント参加
・講義5：先輩職員の体験談	・アンケート回答（セミナー直後の感想等）	→内容は開催地との協議により企画検討する

(開催地候補) ※交付確定後調整のため確定ではありません

札幌	当別町	函館	八雲町	旭川	旭川市	室蘭	白老町	帯広	音更町	釧路	釧路町	北見	網走市
----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----

取組の詳細

(地域交通にもたらされる効果)

- 地域公共交通計画の策定にあたっては次年度以降のアップデートが求められており、本セミナーを受講し地域交通の意義から学ぶことで、既存計画や新規計画の本質化・実質化が加速することが期待される（効果の範囲例→道内の地域公共交通計画策定数：125件※広域含む）
- エリア単位での開催により隣接自治体の参加が見込まれるため、共通する生活圏をもつ自治体担当者同士の連携機会に寄与し、広域幹線系統のサービス見直しや利用促進等の一体的取組による相乗効果が期待される（効果の範囲例→道内の地域間幹線系統数：144系統）

(地域全体に及ぶ効果)

- 利用促進等により地域の高齢者の移動手段確保や地域福祉の実現に繋がるため、定住性向上やQOL向上への寄与が期待される
- 講義は、地域交通だけではなく地域全体のビジョンやまちづくりとの連携の重要性を説く内容となっており、まちづくり等への相乗効果が期待される
- 地域交通に限らず、近隣市町村の担当職員同士のリレーションシップが芽生えることで、生活圏域としてのつながり創出が期待される

(補助事業実施後の予定)

- 補助事業実施後の継続方針としては以下A～C案が考えられる。
- 事業内での効果検証や関係者との意見交換を踏まえて継続方針を検討していく

方針A：本事業主体による自主財源を活用して小規模化した上で継続的取組を実施する（CSR等の観点から実施意向を有している）

方針B：北海道庁や各振興局と連携し、広域の地域公共交通活性化協議会による地域単位で継続的取組を実施する

方針C：北海道運輸局と連携し、毎年開催される人材育成研修へのプログラム組み込み・強化により継続的取組を実施する

検討計画

- ・2025年度：効果検証に基づく関係者意見交換及び継続方針決定
- ・2026年度以降：事業の継続

資金面

- ・地方公共団体や他分野関係者による資金拠出の予定等はない
- ・事業主体において必要資金を銀行より借り入れを行う予定